



Hunting, gathering, cultivating, weaving, sewing, dressing,
carving, praying, dedicating, singing and telling stories...
This is a museum where we live in harmony with nature,
take pride in our humanity, and study wisdom and ways of life.

狩る、採る、耕す、織る、編む、縫う、装う、彫る、祈る、吊う、歌う、踊る、語る...
大自然と共生し、人間としての誇りを尊ぶ、その知恵と精神を学ぶための博物館です。

【お問合せ・予約・パンフレットの請求はこちら】



平取町立二風谷アイヌ文化博物館

〒055-0101 北海道沙流郡平取町二風谷 55

【開館時間】9:00～16:30 【TEL】 01457-2-2892 【FAX】 01457-2-2828

【HP】 <http://www.town.biratori.hokkaido.jp/biratori/nibutani/>

Handmade crafts tell stories beyond the ages.

手づくりの民具たちが
時を超えてあなたに語りかけてくる

NIBUTANI AINU CULTURE MUSEUM

平取町立二風谷アイヌ文化博物館



ABOUT MUSEUM

博物館について



当館においてご覧いただく展示品は、その多くが沙流川流域のアイヌ文化を学ぶための標識的な資料として活用されています。重要有形民俗文化財「北海道二風谷及び周辺地域のアイヌ生活用具コレクション」をはじめとしたアイヌの民具、重要文化的景観に選定されたチセ群のほか、数多くの視聴覚資料、関係図書等が納められています。

付近には萱野茂二風谷アイヌ資料館のほか、旧マンロー邸(国登録有形文化財)、沙流川歴史館、平取町アイヌ文化情報センターなどがあり、徒歩圏内で移動することができます。こうしたアイヌ文化にかかる学術情報の集積は、北海道内の市町村では類例がほとんどありません。

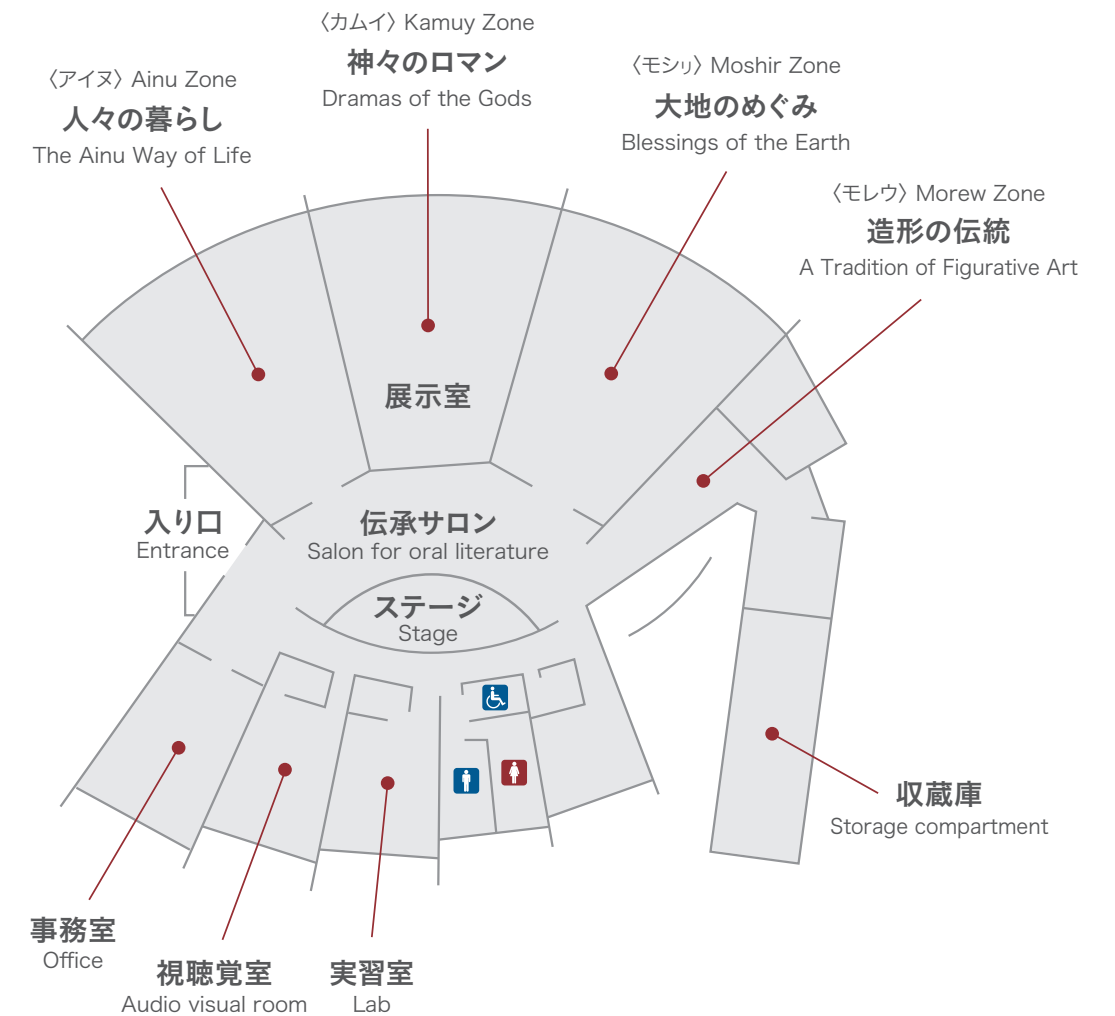
また、2011年からは、地域のアイヌ工芸振興施策である「匠の道」の整備が進められています。二風谷に建ち並ぶアイヌ工芸品店は、平取町における観光振興の中心地であると同時に、技巧を継承し体験頂くための拠点でもあります。

豊かな自然環境を背景に育まれた知恵や教えの姿も含め、アイヌの伝統を多面的・専門的に学ぶことができる当館のご見学をどうぞお楽しみ下さい。

平取町立二風谷アイヌ文化博物館 館長

MAP OF THE HALL

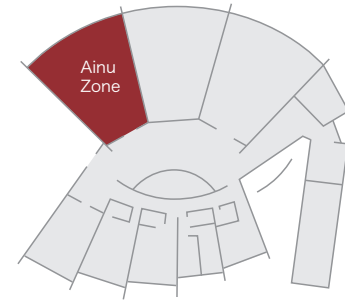
館内のレイアウト



〈アイヌ〉Ainu Zone

THE AINU WAY OF LIFE

人々の暮らし



当館の常設展示は、〈アイヌ〉・〈カムイ〉・〈モシリ〉・〈モレウ〉の4つのゾーンに分けて展開されてます。第1ゾーンの〈アイヌ〉では、育児・遊戯娯楽・木彫・衣類・食事・住居などの分野を中心に、人々が日常の生活に用いた民具類を展示してあります。とくに彫り物や縫い物の文様などに見られるアイヌ民族の伝統的な技巧や美的センスにご注目ください。木彫や刺しゅうの作品を参考にしながら文様を描いてみるコーナーもあります。どうぞお試しください。



〈アイヌ〉Ainu Zone

コタンコロカムイのこえ

展示室内ではコタンコロカムイ=村の守り神であるシマフクロウが案内役。

第1展示ゾーン〈アイヌ〉内の解説パネルに記されたその声を、ここに再録してあります。

コタンコロカムイ 村の守り神

わたしはシマフクロウ……。村人たちは、コタンコロカムイ、村の守り神と呼んでいる。

ここあたりはな、昔も今も、ずっとアイヌ民族が暮らし続けてきた由緒ある土地だ。

これから、わたしが古い時代のアイヌの生活の様子を紹介しよう。あんたたちのおばあちゃんの、そのまたおばあちゃんたちがまだ若かったころ、それよりも前の話だと思えばいいだろう。

そうそう、「アイヌ」というのは「人間」という意味だ。覚えておくんだよ。

シンタ ゆりかご

どこの土地、どの民族でもそうだろうが、昔のアイヌも子どもはだいに育てたよ。

ゆりかごと子どもが使うものは、精神の良い人や子孫が繁栄している人に頼んでこしらえてもらうようにしていた。

赤ん坊のおしゃぶりは、血を増やす薬にもなるハンの木から作ったものだよ。

子どもたちは遊びながら大きくなる。そして、遊びの中で一人前の人間になるための知恵や技をいつのまにか身につけていくんだ。

ラムラムノカ うろこ文様

男にとってたいせつなことは、刃物を巧みに使えるようになることだった。そうでなければ、猟に必要な弓矢やワナをしっかり作れんからな。

木彫りが上手だということは、狩りがうまく、食べ物に困らんで暮らしていける男だということを示すことになる。

だから年ごろの男は好きな人ができると腕によりをかけて彫り物をして、お目当ての娘に贈る。

相手がそれを身につけて使ったら、「私も…」というサインなんだよ。

イカラカラ 文様を縫い込む

成人する前の娘が身につけなければならないことのひとつは、針仕事だった。

求愛を受け入れた相手には、自分が刺しゅうした手甲や脚半を贈る。それは、ひととりの仕事をこなせるようになった、妻としてりっぱにやっていける、という証にもなる。

アイヌの文様がいつごろからあったのか、わたしにもわからないくらい古い。丹精をこめた文様の力で着る者を守りたいとか、飾りたいとか、そんな心とともに受けついできたんだろう。

アットウシ あつし織

昔のアイヌたちは、野山の草や木のことをよく知っていた。そして、それを実に巧みにいかしながら暮らしただものだ。

あつしという織物に使う糸は、オヒョウの木の皮から作る。春から夏にかけてとくに5月・6月が、この仕事には良い季節だ。沙流川の上流の谷間のものが質がいいと言って、わざわざ出かけて集めてきたりもした。

立ち木の皮をはぐ時も丸裸にしない。四分の三以上は残し、あとは紐でしばっておく。枯らさないための、アイヌらしい心づかいだ。

ウトムヌカラ・チセカラ 結婚・新築

お椀にいっぱい盛ったごはんを新郎新婦二人で半分づつ食べるのが、アイヌの結婚式。

結婚をあらわす「ウトムヌカラ」は、お互いを見つめあうという意味なんだよ。

これから結婚する若い夫婦のために、親の家のそばに新居が準備される。

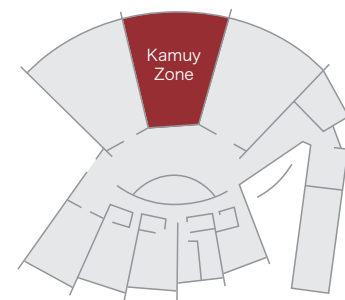
家はチセ。チセカラは家を建てることだ。

新築のときには、村じゅうから人が集まってきて、あつという間に材料を集め木を組んで建てあげてしまったものだ。

〈カムイ〉Kamuy Zone

DRAMAS OF THE GODS

神々のロマン



ここ〈カムイ〉は主に、祈りや信仰、伝説、物語などの精神文化にふれるための展示ゾーンです。チセ(家屋)を模した柱が立ち並ぶビデオステージでは、ユカラ(英雄叙事詩)・カムイユカラ(神謡)・ウウェベケレ(昔話)をご鑑賞いただけます。いずれも、ここだけで聴ける珠玉の伝承作品です。イヨマンテの儀式や、国の重要無形民俗文化財に指定されているアイヌ古式舞踊などを記録した各種ビデオソフトも、ブースで自由にご覧いただけます。



〈カムイ〉Kamuy Zone

コタンコロカムイのこえ2

展示室内ではコタンコロカムイ＝村の守り神であるシマフクロウが案内役。

第2展示ゾーン〈カムイ〉内の解説パネルに記されたその声を、ここに再録してあります。

シシリムカ 沙流川

沙流川のことをアイヌたちはシシリムカと呼んでいた。ほんとうに河口のあたりがふさがってしまう川という意味だ。たくさんの砂を海へと流す大きな川なんだよ。自然の恵みの豊かな川だから、アイヌたちはずっと昔からこのほとりで暮らしてきた。川筋のあちこちに、たくさんの伝説が残っている。人間たちにいろいろな知恵をさずけたオキクルミカムイが、神の国から降り立ったのが、この地だということだよ。

カムイミントラ 神々の祭り場

火の神や水の神は位が高い。神の国では、神々は人間とまったく同じ姿かたちで暮らしている。クマやタヌキの神は、ときどき肉や毛皮を身にまとして人間のところへ遊びに来る。アイヌたちはそう考えていたんだよ。いま立っているこの場所は、人が住むチセではない。ここは、神々が集い遊ぶ神の国の祭り場。ほうら、捧げ物がたくさん並んでいる。人間たちが神々に見せよう・聞かせようと、歌い・踊り・語る声も聞こえてくるよ。

ユカラ 英雄の物語

ユカラということばを聞いたことがあるだろう。ポイヤウンベという若者が活躍する物語のことだよ。長い話だと幾晩も続けて語られる。もちろん、書いたものを見るわけじゃない。全部覚えているんだ。カムイユカラといわれるものもある。これは、サケヘという繰り返しのことばをあいだに入れながら、調子良く語られるものだ。ウウェベケレというのは昔話だな。生活の知恵や教訓をおりこんだ話が多い。まあ、ここで一度きいてみなさい。

ウポポ 歌と踊り

まつりのときは女も男も着飾った。きらきら輝く耳輪や、首飾りを身につけた女たちが炉端に集まり、ウポポを輪唱しはじめると、宴はいよいよ盛り上がってくる。天高く飛ぶ鶴や、野に遊ぶ鶴をまねた舞い。雨燕が飛びかう様をあらわした踊り。跳ねながら炉のまわりを何回も何回もまわる。夜が明けるまで続いたものだよ。近ごろこの踊りが、国の重要無形民俗文化財になったということだ。

トゥキパスイ 捧酒箸

お祈りをするときには、このパスイに酒をつけて神々へ捧げる。アイヌたちは、これをただの道具ではなく、人間の願いを神へ伝えてくれる雄弁な生き物だと思っていた。人間と神との仲介役だと思っていたのだな。若い者たちが、何かで言い争っているときなど、年寄りがこれで頭をコソソとやる。すると文句もいわずで静かになったものだ。とてもだいじなものだけに、工夫をこらして作ったものがたくさん残っているんだよ。

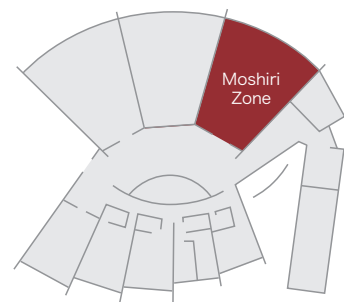
イヨマンテ 熊送り

イヨマンテは、熊の魂を神の国へ送り返す儀式だ。アイヌにとってたいせつな動物や、使えなくなった道具なんかは、ていねいな感謝といったわりのことばを添えて祈りながら、カムイモシリへ送るんだよ。とくにな、一年か二年のあいだ家で飼った子熊を送るときは盛大にやった。近くのコタンだけでなく、遠くからもお客を招く。前もって酒をこしらえたり、準備はたいへんだった。皆でユカラを聴き、歌い、踊り明かす、いちばんのまつりだよ。

〈モシリ〉Moshir Zone

BLESSINGS OF THE EARTH

大地のめぐみ



第3展示ゾーンの〈モシリ〉では、農耕や狩猟、運搬、それに葬送などに関する資料を展示しています。なかでも、桂の大木を使って作られた丸木舟は日本一の大きさ。熊を獲る仕掛け弓も迫力ありますよ。コタンコロカムイとのQ&Aでは、アイヌ民族に関する知恵を整理してみてください。伝統の技を活かした現代の民芸も紹介しています。アイヌ文化の里、二風谷で現在活躍中の工芸家たちが腕をふるった作品の数々。見ごたえがあります。



〈モシリ〉Moshir Zone

コタンコロカムイのこえ3

展示室内ではコタンコロカムイ=村の守り神であるシマフクロウが案内役。

第3展示ゾーン〈モシリ〉内の解説パネルに記されたその声を、ここに再録してあります。

コタンコロカムイ 豊かな幸

春になると、畑に火入れして、ヒエやアワ、イナキビ、豆なんかをまいたもんだ。それと山菜採りだな。秋に収穫した穀物や、保存用に干した山菜なんかはプ＝倉に入れておく。

こんな仕事はだいたい女がしていた。

男はもっぱら山や川でえものをとる。

熊をとるのは秋か、春早く。犬をつれて何日も追いかける。仕掛け弓も使った。

鹿はかんたんにとれたよ。今でいえば牧場に牛がいるようにたくさんいたからな。

チェプコイキ 川の漁

「沙流川の流れ、流れの中は、小形のサケや、大形のサケ、競ってさかのぼる、水面のサケは、天日で背が焦げ、川底を泳ぐサケ、腹をすりむき…」。鮭があふれんばかりにのぼる様子を謡ったカムイユカッだよ。

アイヌにとって鮭は主食だ。だからといって、食べる分をこえて必要以上にとったりはしない。保存用には卵を生んだあとの鮭を使う、漁がおわったら、キツネやカラスの分を川のそばに残しておくことも忘れなかった。

チプサンケ 舟おろしの祭り

言うまでもないことだが、現代に生きているアイヌたちが、昔と同じ暮らしをしているわけではない。すっかり今風な生活だよ。

しかしな、アイヌプリ、先祖から受けついだアイヌ的なものの考え方や、ことばや知識は、しっかり守ってこうとしている。

チプサンケは、伝統的なアイヌの風習や精神を若者に伝えようと、毎年8月20日前後に開かれる川舟の祭り。丸木舟で沙流川をくだり、遊ぶ。その時期になったら、また訪ねてきなさい。

カムイカラオンネ 天寿

天寿をまっとうしたような年寄りの弔いのときには、死者にユカラを聞かせる。

ふつうとちがって、いちばんおもしろいところからはじめて、必ず最後まで語り終える。話しの続きを聞きたさにこの世に戻ってこないよう、心残りなくあの世へ向かわせるために。

行った先、先祖の国でも不自由しないように、装束を整え、お椀や鍋、火打ち石に小刀とか、ふだん使っていたものもいっしょに葬った。イヨイタクコテ、引導渡しのことばとともに。

ウパシクマ 語りつぐ歴史

今とちがって昔のアイヌは文字を使わなかった。いろんなできごとや、先祖がたどった歩みやなんかは、みな記憶して口づたえに語り継いできたんだ。知識をたくわえた年寄りからは心から尊敬されたものだ。

この地には古くから人が住んできた。アイヌが自由に楽しく暮らしていた。だが、大勢の和人が侵略してきてからは、アイヌにとって辛いことも多かった。

いいことも悪いことも、しっかり伝えなければな。これからのためだ。

アイヌモシリ 人間が生きる大地

「アイヌ」は人間、「モ」は静か、そして「シリ」は大地。人が生きているこのゆるがぬ大地を、アイヌモシリというんだ。そこにはな、さまざまな民族が、それぞれのやり方で生きている。おたがいに助けあって、平和に暮らしたいものだな。

いま生きている人たちよ。暮らし方は変わっていても、「アイヌ ネノ アン アイヌ」人間らしい人間。この心は忘れんようにしよう。

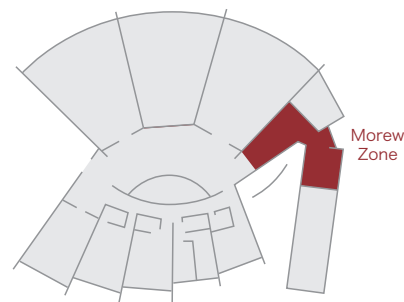
私の案内は、これでおしまいだ。

スイ ウヌカラアン ロー。また会おう。

〈モレウ〉 Morew Zone

A TRADITION OF FIGURATIVE ART

造形の伝統



アイヌの技巧と造形美を紹介しているゾーンです。男女の手仕事それぞれに造形の伝統で培われた美があります。モレウ(静かに・曲がる:アイヌ文様)による装飾と優れた造形の世界をご堪能下さい。



【重要有形民俗文化財指定資料の解説】

平取町二風谷アイヌ文化博物館(公立)と萱野茂二風谷アイヌ資料館(私立)が所蔵する資料の内1,121点が平成14(2002)年2月12日、国の重要有形民俗文化財の指定を受けました(同日付文部科学大臣告示第12号)。指定資料群の公式名称は「北海道二風谷及び周辺地域のアイヌ生活用具コレクション」※です。

平成9(1997)年、「アイヌ文化の振興並びにアイヌ伝統等に関する知識の普及及び啓発に関する法律」(アイヌ文化振興法)が制定され、それ以降、伝統を継承しながら今日的な環境のもとで文化振興をはかり、あわせてアイヌ民族に関する正しい理解を広めようという社会的な要請がいつそう強まってきており、さまざまな施策・事業が積極的に展開されるようになってきています。

平取町では、町内の二風谷地区を中心に、アイヌの有形・無形の文化的遺産の保存伝承が図られるとともに、郷土の誇るべき貴重な文化財として二つのミュージアム、町立博物館と萱野資料館において展示公開されてきました。「アイヌ文化振興法」施行や、国連が提唱する「世界の先住民のための国際10年」(1994～2004年)のもとで多方面からの関心が高まる中、保存活用のための検討作業と系統的な調査研究が着手され継続されてきましたが、こうした取り組みが国による重要有形民俗文化財指定として実を結びました。

※コレクションという用語は、資料の集まり、資料群という意味で使っています。

【地域の文化的環境】

平取町を貫流する日高一の長流、沙流川(さるがわ)の流域に暮らすアイヌの人たちはサルンクル(沙流の人)と称され、北海道内におけるアイヌ民族の中でも1つの有力な文化圏を形成してきました。アイヌ民族にかかわる遺跡・史跡・伝説の地等が数多く分布し、古くからの風習を今に伝える人の多いアイヌコタンが集中している地域として有名で、海外からも含めたくさんの研究者が注目し訪れてきました。

今も民族的伝統を継承していこうという気風の強い土地柄で、とりわけ二風谷地区は文化活動の中心的地域となっていて、工芸・民芸や民族舞踊、アイヌ語などを受け継ぎながら、現代生活の中にも活かしていこうという試みが活潑に取り組まれています。

【指定資料の活用に向けて】

今日、二風谷が文化伝承のための活動拠点と考えられるようになった背景には、アイヌブリ(アイヌの風習・伝統)を絶やすまいとしてきた人々と、その活動を支援してきた人々の、地道な努力の積み重ねがありました。

今後も、地域に根ざした文化伝統が保持され受け継がれていく上で、またアイヌ文化を活用し振興する活動が進展していくに際しても、二風谷の両館に所蔵されている本資料群は、将来に渡っていっそう重要性を増すことでしょう。